

「ドライアイに対する新規薬剤ジクアス点眼液の可能性
～デュアルアクションに期待されること～」

慶應義塾大学医学部眼科学教室 専任講師 松本 幸裕 先生

参加 46名

アサヒ調剤薬局 桑原・木島・白井・中畔・内田、アサヒ薬局 天野、アサヒ薬局医大前店 中畔・八巻・成田・豊田・大久保・島田、コーコク薬局 松原、サガワ薬局 佐藤・細田、サガワ薬局徳持店 嶋田、にしかわ薬局 新木・福井、ハナブサ薬局 秋元、ハナブサ薬局2号店 尾花、ひまわり調剤薬局 曾我、ひろみ薬局中央店 橋本、ひろみ薬局池上店 宮田・芳田、みのる薬局 押切、ゆりかご薬局 清水、杏仁堂薬局 堀井、吉田薬局仲六郷店 古畑・吉田、江島薬局 中野、秋嶋薬局 秋嶋・秋嶋・田多井、春日橋薬局 足助、大森日赤病院薬剤部 平岩・遠藤・市川、大森薬局 山本・武田・平岡、日本メディケア薬局 西村、美原薬局平和島店 田中、美原薬局梅田店 藤本、平井薬局 藤巻、京浜堂薬局 保科

Q&A

Q、コンタクト装用者で、角膜に傷がなくてもジクアスは効果があるのか。

A、ソフトコンタクトの方がハードよりもドライアイになりやすい。

ソフトコンタクトレンズは涙を蒸発させる割合が多いので、分泌量と排出量のバランスが崩れドライアイになりやすい状態になる。

ドライアイにはなっているが傷までは至っていない患者さんもあり、そのような患者さんなどには、涙液量を増加するジクアスは効果は期待できる。

またコンタクトを装用していると角膜知感がにぶくなり、痛みを感じにくくなり反射性の涙液が少なくなることがあるので、傷がなくても涙液の量に異常がある患者さんにはバランスを改善するジクアスは有効だと考える。

Q、ジクアスはコンタクトの上からは点眼しても良いですか。

A、議論のあるところですが、コンタクトの種類にもよります。

1dayコンタクトの場合、有効成分や、添加物が付着して蓄積する前に破棄するので、気にしてはおりません。(許容範囲としています。)しかし、点眼液の有効成分によってはコンタクト自体の耐久性を低下する可能性があるため、長期間使うコンタクトは基本は避けている。

コンタクトの上から点眼すると、有効成分が眼内に濃度を維持したまま移行するかどうか分からないですし、防腐剤がコンタクトレンズに付着して角膜に接触していると影響を及ぼすことになるかもしれないので、長期コンタクトの上から点眼することは基本推奨しておりません。

Q、ドライアイの原因は？

A、昔は加齢による涙液量の減少や、シェーグレンなどの原因が多く上げられたが、今現在は目を酷使するVDT作業によるものが多いと思われます。

現在は若い方を中心にPCなどを多く使う社会になっているので、以前は800万人だといわれていたドライアイ患者さんが、現在は推測で2000万人強いるとも言われております。

VDT作業時間が4時間以上の作業員だと高確率でドライアイを発症しているとも言われており、瞬目回数が減る、空調が効いている乾燥した環境に長時間いることが、その原因だといわれている。

VDT作業中は通常の瞬目回数に比べて約3分の1ほどになるので、涙の分泌量が少なくなる。

Q、デスクワークをしている患者さんにジクアスの効果は？

A、VDT作業員は角膜に傷がついていない場合が多くそのような患者さんはBUTが短いことが多い。

また涙液量に異常がなくてもBUTが短い患者さんがおり、そのような患者さんはムチンが少ないと考えられている。

ムチンが少ないタイプのドライアイを根本的に解決できる薬剤としてはムチンを分泌するジクアスが期待できると考えている。

今までは水分の保湿効果しか期待できない薬剤治療であったが、世界で初めてそのような患者さんのムチンと水分を分泌するので、効果が非常に期待できる。

実際に今までヒアレインしかなく、ヒアレインを出していたが、VDT作業をする患者さんでBUTが短い患者さんにジクアスを処方したら非常に喜ばれた経験があります。

傷が消えたというよりは自覚症状が非常に改善されました。

Q. ジクアスを2回連続で点眼すると、2回目はしみなくなるという事を経験したのですがそのようなことはあり得ますでしょうか。

A.. 経験がないので何ともお答えできない。

しかし2回点眼することによりあまり良くないと思います。

皮膚の弱い方ですと点眼しすぎると眼瞼炎や角結膜上皮障害などの副作用も出てくるかもしれないからです。

また異なる点眼剤でも同じでして、連続して点眼した場合、先に点眼した薬液のほとんどが外へこぼれ出てしまいますので、先に点眼した薬剤の有効成分も2回目に点眼した有効成分も薄まってしまい、本来の効果が発揮できないかもしれないので、5分くらい間隔を開けて点眼するようにご指導宜しくお願い致します。

今回は7月10日です。講師は4月と同じ東邦大学医療センター大森病院不整脈センター センター長 池田隆徳先生です。テーマは未定ですが循環器関連です。次回より認定薬剤師研修1点申請予定です。

以上です。